

「期限表示活用で、家庭から減らそう食品ロス」

I 概要

1 事業の目的

昨年度の委託事業「期限表示活用で減らそう食品ロス」で実施した市民の期限表示活用と食品ロスに対するアンケート調査結果を基に、「期限表示活用で、家庭から減らそう食品ロス」をテーマに啓発講座を開催し、期限表示の正しい知識と期限表示活用で食品ロスにしない方法、また食品ロスにしない調理技術を伝え、家庭で継続できる食品ロス削減策を提案する。

2 実施期間

平成 29 年 7 月から平成 30 年 3 月

3 事業の方法及び内容

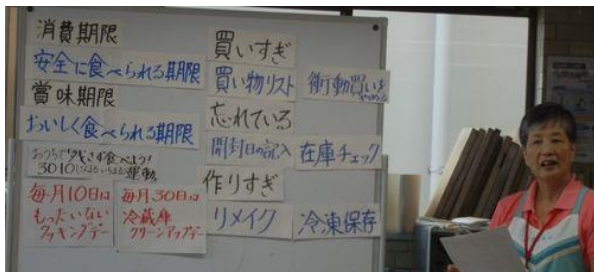
新潟市内 5 か所と市内の専門学校、短期大学で啓発講座を開催する。講座は、昨年度の報告、期限表示活用と食品ロスについての講義、食品ロスにしている食品を捨てない調理技術の実習を行う。また、受講者に期限表示活用と食品ロス及び講座について、さらに受講 1 か月後に期限表示活用と食品ロス削減の実態についてアンケートを実施し、アンケート結果を集計、分析して啓発講座の実効性を検証し、今後の食品ロス削減策に役立てる。

II 啓発講座

1 啓発講座の開催

「期限表示活用で、家庭から減らそう食品ロス」を市民が実践できるようにするものであるそのため、期限表示についての正しい知識と期限表示を活用して食品ロスを減らす方法を伝える講義と、期限切れで捨てられている食材を捨てずに使い切る調理方法を伝える実習の 2 本立てとした。さらに、その後に期限表示活用と食品ロスについての意識・行動の変化と講座で得た知識や技術がどの程度実践されているかを、3 つのアンケートで調査し、講座の実効性を検証してみた。

講座は市内 7 か所、新潟市消費者協会の新潟支部、豊栄支部、新津支部、白根支部、巻支部の会員居住地域及び専門学校と短期大学で開催した。受講者は 212 人。男性 31 人、女性 181 人、年代別では 30 代以下 98 人、40 代以上 114 人。



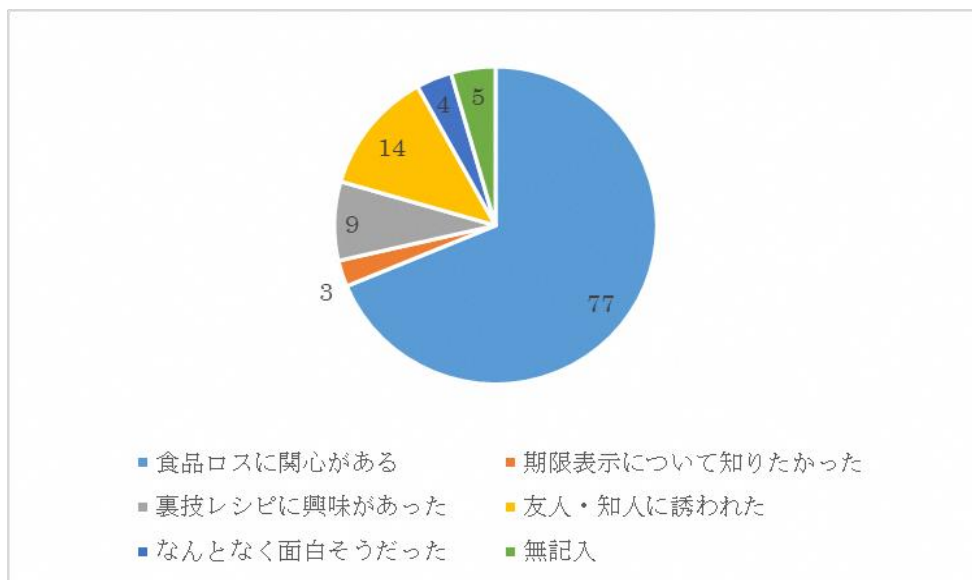
Ⅲ アンケート調査(抜粋)

1. アンケート調査方法 受講前質問 1 受講直後質問 2 1か月後質問 3

受講直後質問

本講座に参加した理由

ア、食品ロスに関心がある 69 人、イ、期限表示について知りたかった 3 人、ウ、裏技レシピに興味があった 8%、エ、友人、知人に誘われた 12%、オ、なんとなく面白そうだった 4 人。



グラフ 8 講座に参加した理由 (人)

講座の満足度

1. 講義

- ①ダイジェスト版から ア、よかった 75% イ、普通 25% ウ、よくなかった 1 人
②期限表示について ア、よかった 77% イ、普通 13% ウ、よくなかった 4 人
③食品ロス削減の裏技
・冷蔵庫・冷凍庫の管理 ア、よかった 78% イ、普通 17% ウ、よくなかった 1 人
・買物リスト ア、よかった 75% イ、普通 20% ウ、よくなかった 1 人
・裏技レシピ ア、よかった 86% イ、普通 8% ウ、よくなかった 1 人

2. 実習

- ①豆腐の比較 ア、よかった 59% イ、普通 23% ウ、よくなかった 16%
②炒り豆腐 ア、よかった 84% イ、普通 11% ウ、よくなかった 1 人
③カッテージチーズ ア、よかった 80% イ、普通 17% ウ、よくなかった 1 人

1か月後質問 3

食品を購入する時、消費期限・賞味期限を見ていますか。

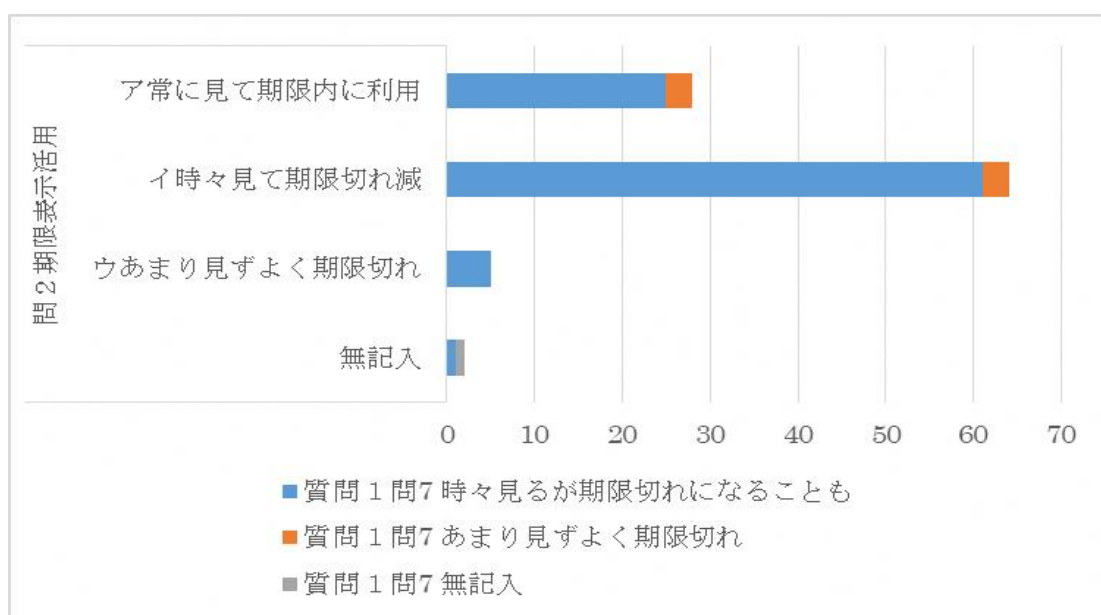
ア、必ず見る 60% イ、ときどき見る 25% ウ、食品によって見たり見なかったりする 11% エ、見ない 3 人

受講前に見なかった人は全員、期限表示を見るようになっており、講座で期限表示について学んだ成果と言えるだろう。同様にウ食品によって見たり見なかったりする人 31 人中ア必ず見るようになった 6 人 19%、イときどき見る 10 人 32%人、ウ食品によって見たり見なかったりする 12 人 39%人、エ見ない 2 人になっている。

購入した食品の保管・管理のために消費期限・賞味期限を活用していますか。

期限表示を全く活用していなかった人は期限表示を活用するようになったが、ある程度活用していた人は大半が変化せず、ウの回答者はあるいは期限切れでも自分で判断して使えばよいと考えるようになったのだろうか。

問 1 同様に、講座では、購入後の食品保管・保存にも期限表示を活用して、食品ロスを減らすことを、もっと明確に伝える必要があると思われる。



グラフ 13 購入後の期限表示活用 1 か月後

IV まとめ

29 年度の委託事業で行った「期限表示活用で、家庭から減らそう食品ロス」をテーマにした啓発講座は、学生から 80 代以上まで幅広い市民が参加し、アンケートへの協力も得られた。その結果、今年度の事業のまとめとして、次の 2 点が挙げられる。

(1) 啓発講座は、委託事業では初の試みであり、準備期間も短かったが、200 人以上の参加者があり、概ね好評であった。アンケートでは講義より実習の方が好評であったが、実践できるかどうかは講座満足度より実生活で手軽に取り組めるかどうかの方が重要である。

アンケートから、啓発講座の受講者は、参加の動機の如何に関わらず、講座の内容では実習など参加型形式を好むが、それを実生活で実践するとは限らないことが分かった。一方、講義形式で得た知識や技術は、質問 2 の講座満足度では一番低かった買い物リストが 1 か月後には一番実践されていたように、受講者がやりやすいように工夫したり応用して実生活でも実践しやすい内容であれば、必要と感じた受講者はきちんと対応していることが注目される。

(2) 期限表示活用については、活用していなかった人ほど、受講後に活用するようになり、ある程度活用していた人はあまり変化していなかった。活用していなかった人は、自分が食品ロスを出していることに気づき、食品ロスを出さないように講義で得た知識や技術を実践するが、ある程度活用していた人は、自分が食品ロスを出しているという意識が低く、現状よりさらに期限表示をうまく活用して食品ロスを減らそうという意識を持たなかった人が多いのではないかと思われる。

このことから、期限表示についての講義では、期限表示を活用しているかどうかに関わらず、受講者が「自分も食品ロスを出している」と思い、受講後、現状以上に期限表示を活用して食品ロスを減らそうとする意識を持てるような内容が望まれる。

以上の結果を踏まえて、次年度以降の「食品ロス」啓発講座は、会場ごとの受講者の年代や生活スタイルによって、講座の内容や伝え方を工夫して、より実践しやすいものにすることが求められる。